

石川県での取り組み事例紹介
登山道整備・白山での試み



石川県自然保護課 美馬秀夫
「自然公園のあり方懇談会」 H15.2.14(金) 環境省

白山の自然

火山景観
豊かな自然
高山植物
ブナ林
野生動物

未来への遺産





白山の登山利用

バラエティに富んだ12の登山コース
合計約150km (石川県管理分110km)

安全な登山が楽しめるコース
原始性の高い自然エリア
を満喫できるコース
白山信仰1000年の歴史
を体感できるコース

年間登山者数：約5万人
(中年・日帰り登山者の増大傾向)
宿泊施設開設期間：5/1～10/15

最短コースへの集中利用が顕著
> 局地的には、オーバーユース
・ 歩道や植生の荒廃
・ 利用の快適性の阻害など

白山登山道の成り立ち

717年(奈良時代) 泰澄が開山

9世紀後半 三禅定道の成立
(加賀・越前・美濃)

昭和30年 白山国定公園の指定

昭和37年 白山国立公園に昇格

昭和40年代 多くの登山道や山小屋を新規整備*

昭和48年 石川県白山自然保護センターの設立

昭和50年代 大規模改修・植生復元

昭和60年代～ 禅定道の復活・メリハリをつけた改修、
ビジターセンターネットワークの整備

* 県が整備(国庫補助・県単)し、村等へ管理委託(県単)

* 石川県が管理する登山道は約110km(福井・岐阜と役割分担)

* 維持管理;草刈り等1500万円/年、総額6700万円/年



<より深く白山にふれあうためのハードとソフト・白山フィールド・ミュージアムへ>

石川県白山自然保護センター・ネットワーク

石川県白山自然保護センター
 ・1973(S48)年設立、職員13名
 ・動植物、地学の専門家など
 ・調査研究・普及啓発・保護管理
 ・後世に豊かな白山の自然を！

<施設の充実>

ビジターセンター(直轄2、県4)

自然体験フィールド

<人>

・自然解説員(1982~)
 ・インタープリター(2000~)

<ソフト>

・ガイドウォーク
 ・いしかわ自然学校
 エコロジーキャンプ
 フィールドセミナー
 ・展示、映像、セルフガイド



登山道の保全修復事例

S52,53 白山弥陀ヶ原の保護と復元 > S54,55 事業実施
 H2,3 白山高山帯歩道の保護と復元(エコーライン・展望歩道) > H6,7事業

・検討委員会を組織 > 外部の専門家・地元山岳関係者などの参画
 ・専門家(植生・土壌・工事等)による調査
 > 荒廃実態と原因究明 > 最適な改善工法の検討 > 工事実施



エコーラインの浸食



弥陀ヶ原の復元(工事直後)

植生復元



整備事例 白山山頂道の修復



施工前

- ・浮き石が多く、安全性に問題
- ・歩道部分の踏み外しによる植生破壊や裸地化の拡大傾向
- ・景観上も問題

施工後

- ・現地の石を中心とする石張り工
- ・歩道を踏み外す人がないように
- ・耐久性の確保



整備事例 エコラインの修復



- ・土砂流出の防止
- ・登山道の洗掘の防止
- ・登山道の明確化

施工前

施工後

- ・木道設置ではみ出し防止
- ・横断排水工で、洗掘防止と弥陀ヶ原へ水の供給



< 歴史の道を復活し、歴史を感じながら歩く楽しみを！ >

白山の3つの禅定道と馬場

白山禅定道の復活

< 3つの禅定道 >
1000年の歴史の道

- ・加賀禅定道(白山比咩神社)
S62、一里野から復活
- ・越前禅定道(平泉寺白山神社)
H11、市ノ瀬から復活
計画中;福井県境から市ノ瀬間
- ・美濃禅定道(長滝白山神社)

歴史の道を含め、
多様な登山利用ができる白山
禅定道を歩こう・連続講座



白山緑のダイヤモンド計画における登山道整備

< 整備のねらい >

- ・必要性和効果の高い改修……………山頂道の充実整備等
- ・歴史の道の復元……………白山禅定道の復活

< 整備事業の実施に当たって・合意形成のために >

- 1 早期段階でのNGOとの意見調整
 - ・自然保護団体、山岳団体との意見調整
 - ・現地での意見交換も
- 2 白山地域自然保護懇話会等での意見交換
 - ・学識経験者、NGO、地元町村長、関係機関等で構成
 - その他、自然公園指導員会議、自然解説員研究会会議
- 3 事業の目的・ねらいの共通認識がキーポイント
 - ・大きなねらいと個別事業のねらい > 実効性ある整備内容

白山の保護と利用 基本的な考え方

< 目標像・将来像 >
「石川のシンボル・誇り」
「歩いて登る山」
「原始性の高い山岳自然公園」

< 現況・課題 >
局地的には、オーバーユース
・ 歩道や植生の荒廃
・ 利用の快適性の阻害など

< 白山の環境収容力 >
自然保護・景観保全・快適利用の観点から総合的に調査・検討
・ 登山者数は年間5万人規模 ・ 室堂宿泊収容力は750人程度

< 持続的保全利用方策の展開 >
自然性を損なわない ・ 気持ちよく利用 ・ 理解者を増やす
・ 利用の分散(時間 = 予約制、空間 = 山麓の体験フィールド等)
・ 自然の保全修復(歩道の改修・植生修復)
・ より深い自然体験、登山者意識の向上(解説員・VCネットワーク)

白山のファンを増やし、魅力的な白山を未来へ守り伝えよう!

白山国立公園指定40周年・国際山岳年2002

白山室堂リニューアルオープン記念行事



白山室堂座談会「21世紀の白山を語ろう」 (2002.8/2-3)

みなみらんぼうさん・谷本石川県知事・二神自然保護官・南白山連邦合衆国大統領・谷野自然解説員

すばらしい白山の自然を未来へ!

・ 自分で登るからこそ喜び ・ 白山は県民・国民の共有財産
・ 世界に誇れる豊かな自然 ・ ふもとの自然や文化も魅力 ・ 白山のファンを増やしたい

課題・これからへの思い

白山のファンを増やし、魅力的な白山を未来へ守り伝えるために!

<「いしかわ自然学校」の推進>

- ・自然体験や環境保全活動の
入りやすい入り口づくり

<登山道の整備・管理から…>

- ・NPO等とのパートナーシップ
- ・登山施設連絡協議会の設立を

<国へのお願い>

- ・グリーンワーカー制度の拡充
- ・地域とともに行動するレンジャーの拡充
- ・全体計画で事業承認を > 前年度に測量設計・合意形成を
- ・自然環境・自然公園関係技術の向上・普及

<適正な費用負担のあり方を具体化>公園の理解者拡大に

<地域と国 共通の目標を掲げ、連携・役割分担>

